

第8回 定時社員総会資料

一般社団法人日本医療薬学会

日 時 : 平成 28 年 3 月 26 日 (土) 15 時 30 分～16 時 30 分
場 所 : T K P 横浜駅東口ビジネスセンター 3 階
（ 2 3 B-2 会議室 ）

第8回 定時社員総会 次第

1. 会頭挨拶
2. 成立確認
3. 議事録署名人の指名
4. 協議事項

第一号議案 平成27年度事業報告（案）	1ページ
第二号議案 平成27年度決算報告（案）	23ページ
第三号議案 平成27年度監査報告	30ページ
第四号議案 平成28、29年度役員選任（案）	31ページ

協議事項 第1号議案

平成27年度 事業報告（案）

自 平成27年1月 1日
至 平成27年12月31日

平成 27 年度事業報告(案)

平成 27 年度の事業は、前年度に引き続き同一の役員体制下で、平成 27 年度事業計画に基づき実施された。3 月 25 日に開催された第 7 回定時社員総会の決議を経て就任した 22 名の推薦代議員及び平成 26 年 12 月に実施された代議員選挙に当選した 213 名（計 235 名）が、同総会の終結時から約 2 年間の任期で新たに代議員として就任した。

本学会の会員数（12 月 31 日時点の正会員数）が 10,794 名となり、前年度より 700 名以上増加した。医療薬学領域における最大規模を誇る本学会への参画を通じて、学術活動への取り組み及び各認定制度による認定資格の取得等に対する会員の意欲が感じられた。

年会の開催は第 25 回を迎えた。従来 2 日間であった会期を初めて 3 日間に変更して横浜で開催した。シンポジウム数、一般演題数共に従前を大きく上回る規模での開催に 9,257 名の一般参加があり、活況を呈した年会となった。

各委員会の活動については、これまでの取り組みを進展させ、会員の期待に応えるべく充実化を図った。特に、薬剤師として業務に取り組む上でのモチベーションの 1 つとなる認定資格を多くの会員が享受するための検討として、薬物療法専門薬剤師制度の見直しと共に保険薬局勤務者及び臨床系大学教員に対する認定制度のあり方の協議を進めた。平成 28 年度も引き続いて検討する。

また、日本薬剤師研修センター、日本薬剤師会、日本病院薬剤師会、日本薬学会及び本学会の 5 団体では、薬剤師の生涯教育に関する新たな評価の仕組みの検討を進めた。評価項目の 1 つとして、学習の達成度を確認する「薬剤師生涯学習達成度確認試験」が開始されるが、本学会では、その試験問題として薬物療法専門薬剤師・認定薬剤師認定試験の問題を提供することとした。平成 28 年度の試験は 7 月 31 日（日）に実施予定である。

11 月に実施した平成 28・29 年度役員候補者選挙により 14 名の理事候補と 3 名の監事候補が選出された。第 8 回定時社員総会（平成 28 年 3 月 26 日開催）において、6 名の推薦理事候補を含めた全 23 名の新役員の選任決議が行われ、承認を受けた際には 2 年間にわたって役員に就任することとなる。また、新役員の体制下において、4 月以降に各委員会も改編される。

最後に、本学会の発足時より四半世紀にわたって日本病院薬剤師会に委託してきた事務局業務を、平成 27 年 12 月末日をもって解消し本学会独自の事務局により運営する。今後も会員のニーズに応えながら多様且つ厚みをもった学会活動を運営するために、それに耐え得る事務局の構築に向け、引き続き体制強化を図る予定である。

平成 27 年度事業報告の概要は以下のとおりである。

[1] 事業の部

1. 会員数（平成 27 年 12 月 31 日現在）

正会員：10,794 名、 学生会員：154 名、 賛助会員：17 社・団体

購読者：35 件、 名誉会員：17 名

2. 認定薬剤師制度の認定数（平成 27 年 1 月 1 日現在）

認定薬剤師：1,349 名

指導薬剤師：757 名

研修施設：270 施設

3. がん専門薬剤師制度の認定数 (平成 27 年 1 月 1 日現在)

がん専門薬剤師：482 名

がん指導薬剤師：204 名

がん専門薬剤師研修施設：264 施設

4. 薬物療法専門薬剤師制度の認定数 (平成 27 年 1 月 1 日現在)

薬物療法専門薬剤師：24 名

薬物療法指導薬剤師：17 名

薬物療法専門薬剤師研修施設：198 施設

5. 会議・委員会開催状況

社員総会 2 回（定時・臨時 各 1 回）、定例理事会 6 回、理事会事前打ち合わせ 5 回、財務委員会 7 回（会計点検 3 回、予算編成に係る協議又は打ち合わせ 2 回、決算準備 2 回）、総務委員会 1 回（人事・労務等の点検 1 回）、監事監査 1 回、広報委員会 5 回（パンフレット作成 WG を含む）、国際交流委員会 2 回、医療薬学編集委員会 2 回、JPHCS 編集委員会 2 回、医療薬学教育委員会 1 回、企画・シンポジウム委員会 1 回、認定薬剤師制度委員会 2 回、がん専門薬剤師認定制度委員会 3 回（がん専門薬剤師制度委員長会議 1 回を含む）、がん専門薬剤師研修小委員会 5 回、がん専門薬剤師アドバンスト研修会打合せ 1 回、がん専門薬剤師試験小委員会 4 回、拡大専門薬剤師育成委員会 2 回、専門薬剤師育成委員会・大学教員認定制度検討 WG1 回、専門薬剤師育成委員会・保険薬局薬剤師認定制度検討 WG1 回、薬物療法専門薬剤師認定制度委員会 2 回、薬物療法専門薬剤師研修小委員会 4 回、薬物療法専門薬剤師・認定薬剤師認定試験実行小委員会 6 回、功績賞選考委員会 1 回、学術貢献賞・奨励賞等選考委員会 2 回、論文賞選考委員会 1 回、推薦代議員候補者選考委員会 1 回、役員候補者選挙管理委員会 1 回、利益相反マネジメント委員会 1 回（平成 27 年 1 月）、人事委員会 3 回（事務局長採用面接、契約職員採用面接を含む）、年会のあり方検討 WG2 回、学生会員増加対策検討 WG2 回、平成 28、29 年度役員選挙当選者による会合 1 回、第 25 回年会に係る学会事務局とコンベンション会社の打ち合わせ 3 回

6. 各委員会活動報告

(1) 総務委員会

- 1) 会の円滑な運営に必要な事項及び諸契約に関わる事項を検討し実行した。
- 2) 事務局体制について検討した。
- 3) 定款を補完し、円滑な運用を図る目的で委員会細則を制定した。
- 4) 学会職員の出張業務に関する内規を改訂した。
- 5) 後援に関する取扱い細則を制定した。
- 6) 専門薬剤師海外研修派遣事業規程を改正した。

(2) 財務委員会

1) 平成 26 年度決算報告

- ① 平成 27 年 2 月 20 日（金）平成 26 年度監事監査

- ② 平成 27 年 3 月 25 日（水）第 7 回定時社員総会承認（於 神戸ポートピアホテル）
- 2) 平成 28 年度予算協議（財務委員会）
 - ① 平成 27 年 3 月 13 日（金）平成 28 年度予算編成に向けた勘定科目の見直し協議
 - ② 平成 27 年 7 月 13 日（月）平成 28 年度予算編成会議
- 3) 平成 28 年度予算の起案
 - ① 平成 27 年 11 月 22 日（日）第 7 回臨時社員総会承認（於 パシフィコ横浜）
- 4) 財務協議
 - ① 年会のありかた検討特別委員会
- 6) 会計点検
 - ① 平成 27 年 1 月 29 日（木）16：30～18：00
 - ② 平成 27 年 6 月 13 日（木）16：30～18：00
 - ③ 平成 27 年 10 月 1 日（木）9：15～10：45
- 6) マイナンバー対応に関する協議
 - ① 平成 27 年 12 月 15 日（火）
- 7) 本学会の活動に対する寄附金募集の活動を行った。
- 8) その他、平成 27 年度の特記事項
 - 平成 28 年度予算から採用する「公益法人会計に準じた勘定科目」の設定・移行に関する検討を行った。具体的には、法人会計勘定科目及び年会仕様勘定科目の見直しのために、主科目、中科目、小科目を再設定した「新基準年会収支決算書」を作成し、平成 28 年度予算編成時に適用した。併せて、この新しい年会収支決算書を今後開催するすべての年会の共通仕様として適用するように理事会承認を得て各年会長に周知した。

（3）広報委員会

1) 学会パンフレット

パンフレットの内容を現状の活動に合致させること、学生の新規入会促進を主たる目的とすることを確認し、年会や各種専門制度・認定制度の紹介を含めた平成 27 年度改訂版学会パンフレットを作成した。

2) ホームページの改訂

英文学術誌発行に伴いトップページの改訂等を検討したが、大幅な改訂は行わず、変更点のみを修正した。

（4）企画・シンポジウム委員会

1) 公開シンポジウムの開催（開催地、実行委員長等）

① 第 57 回 東京都、青山隆夫 氏（東京理科大学薬学部）

9 月 19 日、東京理科大学神楽坂キャンパス記念講堂において、テーマ「医療薬学研究の発展に向けて－薬学生への種蒔きから薬剤師での結実へ－」を開催した。

② 第 58 回 鹿児島県、武田泰生 氏（鹿児島大学医学部・歯学部附属病院）

9 月 19 日、鹿児島大学郡元キャンパス稻盛会館において、テーマ「みんなで支える地域包括ケア－チーム医療及び地域連携における薬剤師の役割－」を開催した。

③ 第 59 回 宮城県、富岡佳久 氏（東北大学大学院薬学研究科）

10月18日、せんだいメディアテーク スタジオシアターにおいて、テーマ「薬剤師職能将来と期待 一チーム医療と地域包括ケアへの貢献ー」を開催した。

④ 第 60 回 滋賀県、寺田智祐 氏（滋賀医科大学医学部附属病院）

11月1日、ニプロ iMEPにおいて、テーマ「医療現場と大学のコラボレーション 一こうすればいいんだ、臨床研究ー」を開催した。

2) 平成 28 年度の公開シンポジウムの開催方針

① テーマ

平成 27 年度と同様に、大学教員・学生が参画できるテーマも視野に入れる。

② 開催候補地の選定

過去に開催していない地域（茨城、埼玉、神奈川、奈良、山口、沖縄）での開催を考慮しながら、学会の普及発展（会員・認定者の増加等）に繋げる。

(5) 会員委員会

1) 会費の遡及納入に係る嘆願書の様式の整備

4月1日より会費の遡及納入に係る嘆願書の様式を統一するとともに、学会ホームページより PDF ファイルにてダウンロードできるよう整備した。

2) 会費の納入依頼

平成 28 年度会費の納入依頼を、学会ホームページの「重要なお知らせ」欄及び「医療薬学」第 41 卷 11、12 両号に掲載するとともに、該当する会員に対し 11 月、12 月に 1 回ずつ会費納入を促すメールを送信し、会費納入の周知を図った。

(6) 医療薬学編集委員会

1) 「医療薬学」第 41 卷 1～12 号を編集及び発行した。

① 163 編の論文投稿（非会員から 13 編）があり、99 編を採択した。

② 102 編（総説 3 編、ミニレビュー 1 編、一般論文 34 編、ノート 64 編）を掲載した。うち、英文論文は 7 編であった。

2) 新たな寄稿原稿として、オピニオン 8 編、専門薬剤師リレーエッセイ 10 編、学会・研修参加報告 6 編を掲載した。

3) 推薦論文制度を導入し、投稿された論文 14 編のうち 8 編を採択した。

4) 投稿論文数の増加と査読期間の短縮を目指して対策を検討した。

(7) JPHCS 編集委員会

1) 英文誌 Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences (JPHCS) をオンラインジャーナルとして発刊し、第 1 卷の編集・発行を行った。

① 平成 26 年は、29 編の論文投稿があり 9 編を採択した。

② 平成 27 年は、43 編の論文投稿があり 25 編を採択した。

③ 採択論文のうち、34 編 (REVIEW 2 編、RESEARCH ARTICLE 26 編、SHORT REPORT 5 編、EDITORIAL 1 編) を第 1 卷に掲載した。

2) BioMedCentral の電子投稿システムの仕様が Editorial Manager® に変更されたため、そのセットアップを実施した。

3) 投稿を促すためのプロモーション活動について討議した。

- ① 会員向けに投稿案内のメールを配信する。
 - ② 2016 年は、特定のテーマ設定した形で特集を組む。
 - ・ テーマは、本誌のスコープ、年会のテーマや企画に合致するもの
 - ・ 対象となるカテゴリーは、総説及びリサーチ
 - ③ 総説の執筆依頼をする。例えば、年会の国際シンポジウムのシンポジストなどに依頼する。
- 4) JPHCS の発行が軌道に乗り、PubMed 収載が決定した。

(8) 認定薬剤師制度委員会

- 1) 認定薬剤師認定申請者より提出された書類を基に受験資格の審査を実施した。
その後、7月 26 日（日）に認定試験を実施した。
申請者数：101名、認定試験受験者数：100名、認定者数：86名（合格率：86.0%）
- 2) 指導薬剤師委嘱者より提出された書類を基に審査を実施した。
申請者数：31名、委嘱者数：28名
(うち、認定薬剤師の認定と指導薬剤師の委嘱を同時に受けた者：3名)
- 3) 研修施設の認定申請を 2 期に分けて受付審査を実施した。
申請施設数：16 施設、認定施設数：15 施設（1 期：7 施設、2 期：8 施設）、
保留・継続審査：1 施設
- 4) 認定薬剤師更新者より提出された書類を基に審査を実施した。
申請者数：176名、更新者数：176名、保留申請者数：1名、保留者数：1名
- 5) 研修施設更新の審査を実施した。
更新対象施設数：25 施設、更新施設数：16 施設
- 6) 研修施設の認定要件の見直しを、引き続き実施する。

◆ 平成 27 年度の認定者、委嘱者及び認定施設の数 ◆

認定薬剤師 262 名（新規 86 名、更新 176 名）
指導薬剤師 115 名（新規 28 名、更新 87 名）
研修施設 31 施設（新規 15 施設、更新 16 施設）

(9) がん専門薬剤師認定制度委員会

- 1) がん専門薬剤師、がん指導薬剤師、がん専門薬剤師研修施設の認定審査並びに試験を実施した。認定者・施設数は、次のとおり。
 - ① がん専門薬剤師・新規認定者数 60 名、更新認定者数 48 名、更新保留 2 名
 - ② がん指導薬剤師・新規認定者数 17 名
 - ③ がん専門薬剤師研修施設・新規認定施設数 13 施設、更新施設数 9 施設
- 2) 教育啓発活動として、集中教育講座、アドバンスト研修会、症例サマリー書き方講座、がん専門薬剤師全体会議、年会における教育シンポジウム等を実施した。
- 3) がん薬物療法海外派遣研修として、ASCO 参加（米国シカゴ）並びにミシガン大学病院研修に 3 名の研修員を派遣した。
- 4) 下部の小委員会活動は、下記のとおり。
 - ① がん専門薬剤師試験小委員会
がん専門薬剤師認定試験問題を作成し、平成 27 年 11 月 7 日（土）に認定試

験を実施した。受験者数 73 名中 60 名（82.2%）を合格とした。

② がん専門薬剤師研修小委員会

がん専門薬剤師対象の第 3 回がん専門薬剤師全体会議（東京、平成 27 年 5 月 16 日）、第 3 回がん専門薬剤師アドバンスト研修会（札幌、平成 27 年 9 月 5 日）を企画・開催した。がん専門薬剤師集中教育講座は、日本病院薬剤師会との共催により計 4 回（東京 3 回、福岡）開催した。また、他学会が実施する講習会・教育セミナーについて、申請内容を審査して受講単位を認定した。

③ 抗がん薬プロフィール小委員会

日本医療薬学会臨床腫瘍学会の委託事業として、抗がん薬のリスク因子プロフィールの作成を開始した。本小委員会が作成した資料は日本癌治療学会ホームページ内の「がん診療ガイドライン」に掲載をする予定である。

(10) 薬物療法専門薬剤師認定制度委員会

1) 薬物療法専門薬剤師、薬物療法指導薬剤師及び薬物療法専門薬剤師研修施設の各認定審査を実施した。

① 薬物療法専門薬剤師には 7 名から申請があった。認定薬剤師資格を有していない 3 名は、薬物療法専門薬剤師・認定薬剤師試験を受験し合格した。当該 7 名より提出された書類を基に認定審査を実施した結果、3 名を同専門薬剤師として認定した。なお、不認定者のうち 1 名は、認定薬剤師の認定条件を充足し且つ認定試験に合格したため、認定薬剤師として認定した。

② 薬物療法指導薬剤師には 8 名から申請があり、提出書類を基に認定審査し 6 名を合格とした。

③ 薬物療法専門薬剤師研修施設として 14 施設を認定した。

2) 申請者が理解しやすいように Q&A を充実させる。

3) 専門薬剤師育成委員会 WG において、薬物療法専門薬剤師の認定条件と他の専門・認定制度の整合化を図る検討が進んでいる。本委員会の意見を聴取しながら専門薬剤師育成委員会 WG に意見を出す形で整合化を検討する。

4) 第 25 回本学会年会において「薬物療法専門薬剤師の医療現場への貢献と可能性」と題したシンポジウムを主催し、認定制度委員長、研修小委員会委員長、担当副会頭から薬物療法専門薬剤師制度の紹介や期待を述べた。さらに、3 名の薬物療法専門薬剤師から 3 つの診療領域に係る介入と症例サマリーの書き方を紹介した。

5) 下部の小委員会である薬物療法専門薬剤師研修小委員会の活動は、下記のとおり。

① 薬物療法専門薬剤師集中講義を 2 回（福岡、東京）開催した。

② 薬物療法専門薬剤師研修ガイドラインの最終案を取りまとめた。

③ 他学会が実施する講習会・教育セミナーについて、申請内容を審査して受講単位を認定した。

(12) 専門薬剤師育成委員会（拡大専門薬剤師育成委員会）

薬物療法専門薬剤師制度の今後の方向性について検討するため、委員会を 2 回開催し、以下の観点から意見交換した。なお、本学会認定制度（がん専門薬剤師、認定薬剤師）との整合性を図る上で、各認定制度委員会委員長を加えて協議した。

1) 各認定制度の認定要件の整合化に向けて、薬物療法専門薬剤師の認定要件の一部

見直しを検討した。

- 2) 認定薬剤師制度と薬物療法専門薬剤師制度の関係を基に、将来の認定制度のあり方を検討した。
- 3) 大学教員認定制度検討 WG と保険薬局薬剤師認定制度検討 WG を開催した。
- 4) 大学教員や保険薬局薬剤師の資質向上に繋がる認定制度を検討した。
- 5) 研修施設の拡充対策を検討した。

(13) 功績賞選考委員会

功績賞の受賞要件を充足する対象者及び過去の受賞者リストを基に、本選考委員会で審議を行い、同賞の受賞候補者として 3 名を選出し理事会に諮った。理事会の審議により下記のとおり受賞者が決定した。

<功績賞> 3名

- ・ 平井 みどり 氏 (神戸大学医学部附属病院 薬剤部)
- ・ 安原 真人 氏 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科)
- ・ 山本 信夫 氏 (株式会社保生堂薬局)

(14) 学術貢献賞・奨励賞等選考委員会

平成 27 年度学術貢献賞、奨励賞については、従前と同様の要領で募集をしたところ、学術貢献賞に 2 名、奨励賞に 4 名の応募があった。本選考委員会において審議を行い、受賞候補者として学術貢献賞受賞候補者 2 名、奨励賞受賞候補者 3 名を選出し、理事会に諮った。また、医療薬学領域の研究活動の活性化を図るために、学位（博士）取得後 3 年以内の者を表彰する制度として平成 24 年度より設置した Postdoctoral Award には 9 名の応募があり、前者と同様に選考を行い、受賞候補者 5 名を選出した。理事会の審議により下記のとおり各受賞者が決定した。

<学術貢献賞> 2名

- ・ 猪川 和朗 氏 (広島大学大学院 医歯薬保健学研究院)
研究題目 臨床ファーマコメトリクスを基盤とした薬物治療の最適化支援
と副作用マネジメント
- ・ 谷川原 祐介 氏 (慶應義塾大学 医学部)
研究題目 TDM の学術的基盤と臨床適用拡大をめざした研究

<奨励賞> 3名

- ・ 小林 正紀 氏 (北海道大学大学院 薬学研究院)
研究題目 MCT の役割に着目した疾患と副作用に関する研究
- ・ 菅 幸生 氏 (金沢大学 医薬保健研究域薬学系)
研究題目 医療者の認知度が低い副作用の発見・評価・予防対策によるがん薬物療法の質的向上
- ・ 山本 吉章 氏 (国立病院機構 静岡てんかん・神経医療センター 臨床研究部)
研究題目 難治てんかん患者を対象とした抗てんかん薬の薬物相互作用解析

<Postdoctoral Award> 5名

- 今浦 将治 氏 (社会福祉法人恩賜財団 済生会横浜市東部病院 薬剤部)
学位論文題目 集中治療室における薬物療法への薬剤師の介入効果に関する研究
- 宇佐美 英績 氏 (大垣市民病院 薬剤部)
学位論文題目 造血器腫瘍患者への化学療法支援に対する臨床薬学的研究
- 中出 順也 氏 (金沢大学附属病院 薬剤部)
学位論文題目 EGFR/Met/VEGFR2 の共阻害は EGFR 変異肺がんの HGF による EGFR-TKI 耐性を克服する
- 古堅 彩子 氏 (北海道大学病院 薬剤部)
学位論文題目 Eicosanoid の細胞外放出過程における multidrug resistance-associated protein (MRP) の寄与に関する研究
- 溝神 文博 氏 (独立行政法人 国立長寿医療研究センター 薬剤部)
学位論文題目 褥瘡治療における薬剤師からの積極的薬物療法の提案とその有用性について

(15) 論文賞選考委員会

平成 27 年度論文賞については、従前と同様の要領で募集を行い、応募論文及び推薦論文より選考した。本選考委員会において審議を行い、受賞候補論文として下記の 3 編を選出し、理事会に諮った。理事会の審議により下記のとおり各受賞論文が決定した。

- 医療薬学 Vol. 40, #2, 67-77 (一般論文)
「わが国のナショナルレセプトデータベースが示した運転等禁止・注意医薬品の使用実態」
飯原なおみ、吉田知司、岡田岳人、中妻 章、桐野 豊
(徳島文理大学香川薬学部、同大学保健福祉学部)
- 医療薬学 Vol. 40, #9, 488-499 (一般論文)
「調剤薬局来局者を対象とした健康食品の使用実態調査とその情報に基づいた CYP2D6 活性阻害評価」
佐々木崇光、熊谷 健、佐々木瞳、稻見敬太、佐藤 裕、高橋昌悟、松永民秀、頭金正博、細川正清、大森 栄、永田 清
(東北薬科大学環境衛生学教室、名古屋市立大学大学院薬学研究科臨床薬学、同研究科医薬品安全性評価学、千葉科学大学薬学部薬物動態学研究室、信州大学医学部附属病院薬剤部、同大学大学院医学系研究科分子薬理学)
- 医療薬学 Vol. 40, #11, 625-631 (一般論文)
「中等度がん疼痛に対する経口トラマドールと少量オキシコドンの比較試験」
倉橋基尚、梶山 徹、塚本泰彦、眞継賢一、垣見 亮、市原しのぶ、田中益司、濱口良彦
(関西電力病院 薬剤部、同緩和医療科、同心療内科、同看護部、同麻酔科)

(16) 医療薬学教育委員会

本委員会が対象とする領域は、臨床系の薬学教員に限らず、薬学の全領域、薬学生及び大学員生が対象である。幅広い対象と活動支援等がある中で、今年度の本委

員会の活動として、下記のアンケート調査を実施することとした。

1) アンケートの調査対象

- ① 薬学部 6 年 + 薬学系大学院 4 年博士課程コースを有する大学
- ② 社会人大学院生が在籍している 3 年制及び 4 年制大学院博士課程を有する大学
- ③ 大学院博士課程外のコースを有する大学

2) 調査内容（主たる調査事項）

- ① 4 年制大学院博士課程に在学する 4 年次修業者及び来春の修了見込者数
 - ② 3 年制及び 4 年制大学院博士課程に在学する社会人大学院生及び来春の修了見込者数
 - ③ 大学院博士課程外のコースを有する大学
 - ④ 上記に計上された大学院生の個人毎の研究テーマ・領域及び予定進路
- 上記の方針に基づき、アンケート調査票（案）を作成した。現在、各委員からの意見をもとに修正中であり、平成 28 年度内に各大学へ発送予定。

(17) 国際交流委員会

平成 27 年 11 月 21 日にパシフィコ横浜で行われた第 25 回日本医療薬学会年会において国際シンポジウムを開催し、海外の薬剤師を交えてチーム医療における薬剤師の薬学的な関わりについて、現状や課題について意見交換が行われた。また、international poster 展示による発表が行われ活発な討論があった。

(18) 利益相反マネジメント委員会

一般社団法人日本医療薬学会利益相反マネジメント規定に基づき、2014 年 1 月から 12 月までの期間について、全ての理事、監事、年会長、次期年会長、次々期年会長、公開シンポジウム実行委員長、各小委員会委員長および事務局長より提出された自己の利益相反の申告書を確認した。提出された自己申告書について記載の不備、記載漏れ等について、問題となる点が認められなかった。また、自己申告書が事務局内に適正に保管管理されていることを確認した。

(19) 人事委員会

平成 27 年 2 月に非常勤職員の採用面接を実施し 1 名を採用した。また、同年 9 月に事務局長（正規職員）を公募したところ 1 名より応募があった。10 月に採用面接を実施し、理事会で協議をした結果、平成 28 年 1 月より採用することとなつた。平成 28 年度より、積年の課題であった本学会事務局の独立（日病薬への事務局業務の委託を解消）を果たすことができた。今後、更なる事務局体制の強化に務める。

7. 年会（第 25 回日本医療薬学会年会）

医療薬学の進歩と未来 一次の四半世紀に向けて一

開催日 平成 27 年 11 月 21 日（土）～23 日（月・祝）

会 場 パシフィコ横浜

(1) 事業内容

年会長講演	1 題
特別講演	6 題
日本医療薬学会 学術貢献賞受賞講演	2 題
日本医療薬学会 奨励賞受賞講演	3 題
日本医療薬学会 Postdoctoral Award 受賞講演	5 題
教育セミナー	1 セッション
特別企画シンポジウム	1 セッション
国際シンポジウム	1 セッション
シンポジウム（公募）	43 セッション
一般演題	1,699 題
i) 口演	326 題（うち優秀演題候補 50 題）
ii) ポスター	1,373 題
International Poster	10 題
平成 27 年度日本病院薬剤師会病院薬局協議会／学術フォーラム	
スponサードシンポジウム	1 セッション
共催セミナー	30 セッション
日本薬科機器協会ワークショップ	
市民公開講座	

- ◆ 参加者数 一般参加者数：9,257 名
- ◆ 招待者数 : 100 名
- ◆ 懇親会 : 318 名（招待者除く）
- ◆ 市民公開講座：約 100 名

(2) 事業報告

第 25 回日本医療薬学会年会を、平成 27 年 11 月 21 日（土）～23 日（月・祝）の 3 日間、パシフィコ横浜（横浜市西区）にて開催したところ、参加者は招待者を含め 9,300 名を越え、年会史上最大の参加者数を記録した。

本年会のメインテーマは、「医療薬学の進歩と未来 一次の四半世紀に向けてー」とした。特別講演は、薬学、薬事行政、医療、医学、教育、経済の各領域を代表する 6 名の先生方に講演いただいた。特別講演 1 では、京都大学大学院薬学研究科の橋田充教授が「薬物投与技術の進歩と将来の医療」と題して、多様な科学技術分野の中での薬学の位置付けを概観するとともに DDS の進歩について講演された。特別講演 2 では、厚生労働省の森和彦審議官が「薬剤師の真価の発揮に向けて」と題して、行政の立場から薬学・薬剤師の現状と課題について解説され、「モノ」から「ヒト」へと薬剤師業務の方向性を示された。特別講演 3 では、聖路加国際病院の福井次矢院長が「これから医療とわれわれに求められるもの」と題して、医師、教員、研究者、そして病院や大学の管理者としてのご経験に基づき、広くこれからの医療のありかたについて講演された。特別講演 4 では、東京大学大学院医学系研究科の水島昇教授が「オートファジーの謎に迫る」と題して、真核細胞に普遍的な細胞内分解システムであるオートファジーについて、研究の端緒から最新の知見まで体系的に紹介された。特別講演 5 では、American College of Clinical Pharmacy (ACCP)

の Wafa Y. Dahdal 先生が「Standards for Clinical Pharmacy Practice」と題して、国際的な視点から薬学教育と薬剤師業務の進歩を紹介するとともに、ACCPにおけるクリニカルファーマシストの業務基準について解説された。特別講演 6 では、一橋大学国際・公共政策大学院の井伊雅子教授が「医療のあり方を経済学で考える」と題して、レセプトデータの解析例などを海外と比較する形で紹介され、費用対効果分析に基づく評価や政策立案の必要性を指摘された。

本年会では、「薬学教育の将来を考える」と題した教育セミナーを企画した。6 年制と 4 年制が並立した新薬学教育制度の下で 10 年が経過し、本年度から改訂モデルコアカリキュラムによる 6 年制教育がスタートするなど、薬学教育の改革は進みつつあるものの、なお多くの課題を抱えている。そこで、4 名の薬学部長の先生方に各大学における取組とこれからの薬学教育のあり方を語っていただいた。質疑では、教員に加えて現場の薬剤師から多くの意見があり、本セミナーは薬学教育の将来について改めて考える良い機会となった。

また、25 年という節目に医療薬学の更なる飛躍を期して、次の四半世紀を支える若手による特別企画シンポジウムを企画した。「次の四半世紀に向けて医療薬学を考える」とのテーマのもとで、病院薬剤師、薬局薬剤師、大学教員、行政と異なる立場の若手シンポジストから、医療薬学の未来に向けた課題と展望について講演いただいた後、会場の参加者も交えて討論を行った。総合討論では、参加者から多くの質問・コメントがよせられ、当初 20 分の討論時間を設定していたが、最終的には 40 分間に延長した。議論はつきなかったものの、医療薬学の将来を考える上で貴重なシンポジウムとなった。

公募シンポジウムには 56 件の応募をいただいた。審査方法は、①学術的意義、②医療への貢献、③社会的意義／参加者の関心、④年会テーマとの関連、⑤活動実績／準備状況の 5 つの評定要素に関する絶対評価を行い、さらに 5 段階の総合評点（相対的評価）を付すこととした。7 名の実行委員による審査結果に基づき、最終的に組織委員会で 43 件を採択した。内容は多岐にわたり、科学論文の書き方から、基礎と臨床の橋渡し教育、フィジカルアセスメント、スポーツファーマシスト、がん化学療法、処方の電子化など、いずれも年会テーマに相応しい内容であった。ここ数年の年会では、8~9 つのシンポジウムが同時に平行開催されていたが、本年会では会期が 3 日間となりプログラムに余裕をもたせるとの方針から、シンポジウム会場を 6 つにしぶり各会場のサイズができるだけ大きくし、より多くの参加者が希望するシンポジウムに臨むことができるよう配慮した。さらに 5 つの会場については事前に中継会場を準備し、多数の参加者に対応できるよう心がけた。しかしながら、なお一部のシンポジウムでは中継会場もあふれるほどの盛況ぶりであった。

一般演題は、応募いただいた 1705 題を実行委員で査読し、1699 題（口演：326 題、ポスター：1373 題）を採択した（採択後の演題取り下げ 7 題）。口演会場は 5 会場用意したが、118~132 席と小さな会場を割り当てるを得ず、多くのセッションで会場から参加者があふれる事態となった。一方、ポスター発表は、広い会場を準備したことで、各ポスターの展示期間をほぼ丸 1 日確保しつつゆとりあるポスターボードの配置ができ、混雑もなく参加者からも好評であった。

本年会では第 24 回年会と同様に、一般演題（口演）の中から優秀演題を選考した。まず演題登録時に優秀演題に応募した 186 題について、実行委員 17 名で一次選考を

行った。選考方法は、要旨および応募理由による書面審査とし、1演題につき4名の審査員による5段階の相対評価を行い、上位50題を選出した。年会初日の二次選考では、①研究テーマの新規性、②研究内容（方法、結果および考察）の妥当性、③研究内容の学術的・社会的波及効果、④プレゼンテーションの明瞭性および質疑応答の4項目について、優秀演題選考委員20名による審査を行った。審査結果に基づき、最終的に優秀演題選考委員会で10件の優秀演題を選出し、2日目の懇親会で表彰を行った。

ランチョンセミナーは3日間で30件の共催セミナーを実施した。座席数のおおよそ85%を事前登録制とし、整理券を年会参加証と共に郵送したことから、当日大きな混乱はなかった。

最終日の市民公開講座では、神戸大学医学部附属病院薬剤部長の平井みどり教授とシンガーソングライターのより子さんに、講演とミニライブを通して「いのち輝く未来に向けて」というテーマで語り合っていただいた。より子さんからは、歌声だけでなく「がん患者」としてのご自身の体験も語っていただき、涙を流す参加者もいるなど心に響く大変貴重なセッションとなった。

本年会でも昨年度と同様に、携帯端末用の要旨集アプリを導入した。演題の検索に加えて、聴講したいセッションや演題を自分のスケジュールとして登録することで、大会期間中のオリジナル予定表が作成できるなどの機能を有し、ダウンロード数は5,219と参加者の半数以上の利用があった。また、ランチョンセミナーのチケット配布状況や、優秀演題受賞者の公表など、年会期間中の事務局からの連絡もアプリを通じて行うことができ、参加者にも好評であった。

子育て中の参加者を支援するため、本年会でも託児室を準備した（外部委託）。当初1日あたり20名の受け入れを上限としていたが、多くの応募があったことから受け入れ枠を拡大し、年会初日が34名、2日目と3日目は各37名の方に利用いただいた。

8. 医療薬学公開シンポジウム

(1) 第57回医療薬学公開シンポジウム

医療薬学研究の発展に向けて 一薬学生への種蒔きから薬剤師での結実へ一

開催日 平成27年9月19日（土）

会 場 東京理科大学神楽坂キャンパス1号館

基調講演1.

座長：城西大学薬学部・教授 金本郁男

「薬の問題解決に向けた臨床研究の倫理的ポイント」

東京理科大学薬学部・教授 東京理科大学倫理委員会委員長 小茂田昌代

基調講演2.

座長：城西大学薬学部・教授 金本郁男

「臨床論文を読む際の統計チェックポイント」

大阪大学大学院医学系研究科 臨床統計疫学寄附講座・准教授 山本紘司
シンポジウム

座長：東京理科大学薬学部・教授 青山隆夫

慶應義塾大学薬学部・教授 木津純子

i) 学部生

「食後の血糖上昇を効果的に抑制する野菜ジュースの摂取タイミングと摂取量」

城西大学薬学部・6年 奥山愛

「ダプトマイシンの血中濃度測定に基づく至適投与方法の検討」

慶應義塾大学薬学部・6年 本多里佳子

「腎移植後サイトメガロウイルス感染症の予防に対する抗ウイルス薬の早期投与法と予防投与法の有効性の評価」

東京理科大学薬学部・6年 山下浩平

ii) 大学院生

「心疾患の検査及び治療に対するβ遮断薬の適正使用法の構築」

東京薬科大学大学院薬学研究科 薬学専攻博士課程・4年 藤戸香理

iii) 若手臨床系教員

「結核専門病院との連携による結核と肺 MAC 症治療薬の適正使用に関する臨床研究」

東京理科大学薬学部・助教 下村斎

iv) 病院・薬局薬剤師

「臨床現場における医療薬学研究の探索と課題」

社会医療法人社団新都市医療研究会[関越]会 関越病院・薬剤科長 安野伸浩

「薬局における医療薬学研究～大学といかに共同し、Evidence を創出するか～」

千葉県薬剤師会・薬事情報センター長 飯嶋久志

v) 総合討論

◆ 参加者数 131人

(2) 第 58 回医療薬学公開シンポジウム

みんなで支える地域包括ケア～チーム医療および地域連携における薬剤師の役割～

開催日 平成 27 年 9 月 19 日 (土)

会 場 鹿児島大学郡元キャンパス 稲盛会館

シンポジウム

座長：鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 薬剤部 准教授・副薬剤部長 池田 龍二

「地域完結型医療の中での救急医療・集中治療専任薬剤師の役割～その時からその後を考える～」

長崎大学病院 薬剤部 安藝敬生

「HIV 領域における地域連携の問題点と薬剤師の役割」

国立病院機構九州医療センター 薬剤部 大石裕樹

「鹿児島大学病院での院内感染対策への薬剤師の活動状況と鹿児島県下における地域連携の取り組み」

鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 薬剤部 茂見茜里

「在宅緩和ケアにおける薬剤師の役割～チーム医療を目指して～」

株式会社ハートフェルト 在宅・施設管理担当 管理薬剤師 天方奉子

特別講演

座長：鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 薬剤部 教授・薬剤部長 武田泰生

「地域包括ケア時代におけるがん医療～薬剤師の皆様に期待すること～」

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 先進治療科学専攻臨床腫瘍学講座教授

上野真一

◆ 参加者数 92人

(3) 第59回医療薬学公開シンポジウム

薬剤師職能将来と期待 チーム医療と地域包括ケアへの貢献～

開催日 平成27年10月18日(日)

会場せんだいメディアテーク スタジオシアター
教育講演

座長：東北大学病院 教授・薬剤部長 真野成康

「地域包括ケアで期待される薬剤師の役割」

厚生労働省医薬食品局総務課 医薬情報室長 田宮憲一

特別講演

座長：一般社団法人 宮城県薬剤師会 会長 佐々木孝雄

「超高齢社会が要請する新しい薬剤師像」

厚生労働省国立保健医療科学院 統括研究官 今井博久

シンポジウム

座長：東北大学大学院 薬学研究科准教授 村井ユリ子

NTT東日本東北病院薬剤部 薬剤部長 石澤文章

「行政の立場から」

宮城県保健福祉部薬務課 技術副参事兼技術補佐 安藤京子

「卸勤務薬剤師の立場から」

株式会社スズケン薬事管理部 部長 高橋智恵

「薬局勤務薬剤師の立場から」

クオール株式会社東北第三事業部 事業部長 島貫英二

「病院勤務薬剤師の立場から」

石巻赤十字病院薬剤部 薬剤部長 佐賀利英

◆ 参加者数 79人

(4) 第60回医療薬学公開シンポジウム

医療現場と大学のコラボレーション～こうすればいいんだ、臨床研究～

開催日 平成27年11月1日(日)

会場ニプロiMEP

特別講演

座長 滋賀医科大学医学部附属病院 薬剤部教授・薬剤部長 寺田智祐

「医療と医療：基礎から臨床への展開」

滋賀医科大学医学部医学科 脳神経外科学講座教授 野崎和彦

シンポジウム1

座長 滋賀医科大学医学部附属病院 薬剤部准教授・副薬剤部長 森田真也

「一般病院とのコラボレーション」

京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター 助教 松村千佳子

「大学病院とのコラボレーション」

立命館大学薬学部 医療薬剤学研究室 助教 上島智

「薬局薬剤師によるエビデンス作り」

パスカル薬局 管理薬剤師 横井正之

シンポジウム 2

座長 立命館大学薬学部 教授 桂敏也

「基礎薬学の立場から臨床現場に貢献できること」

京都薬科大学 微生物・感染制御学分野 教授 後藤直正

「薬学研究者が知りたい臨床研究デザイン：新しい倫理指針を学ぶ」

京都大学医学部附属病院 臨床研究総合センター 特定講師 福間真悟

◆ 参加者数 182 人

9. がん専門薬剤師集中教育講座

(1) 東京

開催日 平成 27 年 3 月 21 日、22 日

会 場 東京医科歯科大学 M&D タワー 鈴木章夫記念講堂

第 1 日 平成 27 年 3 月 21 日（土）

「抗がん剤の臨床薬理」 慶應義塾大学医学部 臨床薬剤学教授 谷川原祐介

「大腸がんの薬物療法」 慶應義塾大学病院 腫瘍センター特任講師 浜本康夫

「肺がんの薬物療法」 帝京大学医学部 内科学講座腫瘍内科 病院教授 関順彦

「緩和医療とがん疼痛治療」 埼玉医科大学総合医療センター 薬剤部主任 佐野元彦

「白血病、造血幹細胞移植」 北海道大学大学院医学研究科 血液内科学分野教授 豊嶋崇徳

「胃がんの薬物療法」 筑波大学医学医療系 消化器内科学教授 兵頭一之介

「婦人科領域がんの薬物療法」 静岡県立静岡がんセンター 婦人科部長 平嶋泰之

「悪性リンパ腫の薬物療法」 がん研有明病院 血液腫瘍科副医長 横山雅大

第 2 日 平成 27 年 3 月 22 日（日）

「がんの発生、転移、薬剤耐性」 都立駒込病院 臨床検査科臨床研究支援室

医長・室長 小泉史明

「放射線腫瘍学」 神奈川県立がんセンター 放射線腫瘍科部長 中山優子

「支持療法」 金沢市立病院 薬剤室長 河原昌美

「がん薬物療法の臨床試験」 名古屋大学医学部附属病院 化学療法部教授 安藤雄一

「泌尿器がんの薬物療法」 京都大学大学院医学研究科 泌尿器科講師 井上貴博

「安全な化学療法の実践」 埼玉県立がんセンター 薬剤部副技師長 中山季昭

「乳がんの薬物療法」 日本医科大学 乳腺科教授 武井寛幸

◆ 参加者数 468 人

(2) 福岡

開催日 平成 27 年 5 月 9 日、10 日

会 場 九州大学箱崎文系キャンパス大講義室

第 1 日 平成 27 年 5 月 9 日（土）

「胃がんの薬物療法」 九州大学大学院医学研究院 外科分子治療学准教授

沖英次

「頭頸部がんの薬物療法」 九州大学大学院医学研究院 耳鼻咽喉科学准教授
中島寅彦

「がんの発生、転移、薬剤耐性」 都立駒込病院 臨床検査科臨床研究支援室
医長・室長 小泉史明

「がん薬物療法の臨床試験」 名古屋大学医学部附属病院 化学療法部教授 安藤雄一
「抗がん剤の臨床薬理」 慶應義塾大学医学部 臨床薬剤学教授 谷川原祐介
「肺がんの薬物療法」 静岡がんセンター 呼吸器内科医長 銀持広知
「泌尿器がんの薬物療法」 慶應義塾大学医学部 泌尿器科学教室教授 大家基嗣
「緩和医療とがん疼痛治療」 研究科総合医療センター 薬剤部主任 佐野元彦

第2日 平成27年5月10日(日)

「支持療法」 九州がんセンター 薬剤部副薬剤部長 林稔展
「悪性リンパ腫の薬物療法」 金沢大学附属病院 輸血部准教授 山崎宏人
「婦人科領域がんの薬物療法」 国立がん研究センター中央病院 乳腺/腫瘍内科
温泉川真由

「白血病、造血幹細胞移植」 北海道大学大学院医学研究科血液内科学分野教授
豊嶋崇徳

「大腸がんの薬物療法」 神戸大学大学院医学研究科外科学講座食道胃腸外科教授
掛地吉弘

「乳がんの薬物療法」 がん研有明病院乳腺センター乳腺センター長 大野真司
「安全な化学療法の実践」 九州大学病院 薬剤部薬剤主任 池末裕明

◆ 参加者数 399人

(3) 東京

開催日 平成27年7月11日、12日

会場 慶應義塾大学日吉キャンパス 藤原洋記念ホール

第1日 平成27年7月11日(土)

「乳がんの薬物療法」 国立がん研究センター東病院 乳腺・腫瘍内科医長 向井博文
「白血病、造血幹細胞移植」 国立がん研究センター中央病院造血幹細胞移植科長
福田隆浩

「安全な化学療法の実践」 公益財団法人がん研有明病院 薬剤部長 濱敏弘
「抗がん剤の臨床薬理」 滋賀医科大学医学部附属病院 薬剤部 教授・薬剤部長
寺田智祐

「大腸がんの薬物療法」 静岡県立静岡がんセンター消化器内科医長 山崎健太郎
「がん薬物療法の臨床試験」 名古屋大学医学部附属病院 化学療法部教授 安藤雄一
「肺がんの薬物療法」 日本医科大学付属病院 がん診療センター長 久保田馨
「胃がんの薬物療法」 愛知県がんセンター中央病院 薬物療法部長 室圭

第2日 平成27年7月12日(日)

「小児がんの薬物療法」 国立がん研究センター東病院 小児腫瘍科医長
細野亜古

「がんの発生、転移、薬剤耐性」 近畿大学医学部 ゲノム生物学教室教授 西尾和人
「悪性リンパ腫の薬物療法」 金沢大学附属病院 輸血部准教授 山崎宏人

「支持療法」 金沢市立病院 薬剤室長 河原昌美
「婦人科領域がんの薬物療法」 兵庫県立がんセンター 腫瘍内科医長 松本光史
「泌尿器がんの薬物療法」 佐々木研究所附属杏雲堂病院 腫瘍内科科長 河野勤
「緩和医療とがん疼痛治療」 北陸大学 薬学部 臨床薬学教育センター教授 高瀬久光
◆ 参加者数 462 人

(4) 東京

開催日 平成 27 年 11 月 28 日、29 日
会 場 一橋大学一橋講堂

第 1 日 平成 27 年 11 月 28 日 (土)

「悪性リンパ腫の薬物療法」 がん研有明病院 血液腫瘍科血液腫瘍担当部長 照井康仁

「がんの発生、転移、薬剤耐性」 都立駒込病院 臨床検査科臨床研究支援室 医長・室長 小泉史明

「抗がん剤の臨床薬理」 慶應義塾大学医学部床薬剤学教授 谷川原祐介

「肝臓・胆嚢・膵臓がんの薬物療法」 四国がんセンター 臨床研究センター長 石井浩

「支持療法」 がん研有明病院 薬剤部副薬剤部長 鈴木賢一

「緩和医療とがん疼痛治療」 埼玉医科大学総合医療センター 薬剤部主任 佐野元彦

「大腸がんの薬物療法」 国立がん研究センター中央病院 消化管内科病棟医長 濱口哲弥

「肺がんの薬物療法」 和歌山県立医科大学 呼吸器内科・腫瘍内科教授 山本信之

第 2 日 平成 27 年 11 月 29 日 (日)

「安全な化学療法の実践」 埼玉県立がんセンター 薬剤部副技師長 中山季昭

「乳がんの薬物療法」 がん研有明病院 乳腺センター長 大野真司

「がん薬物療法の臨床試験」 横浜市立大学 臨床統計学教授 山中竹春

「白血病、造血幹細胞移植」 北海道大学大学院医学研究科血液内科学分野教授 豊嶋崇徳

「胃がんの薬物療法」 筑波大学 医学医療系臨床医学域 消化器内科学 教授 兵頭一之介

「泌尿器がんの薬物療法」 慶應義塾大学医学部 泌尿器科学教室教授 大家基嗣

「婦人科領域がんの薬物療法」 静岡県立静岡がんセンター 婦人科部長 平嶋泰之

◆ 参加者数 477 人

10. がん専門薬剤師全体会議

第 3 回がん専門薬剤師全体会議

開催日 平成 27 年 5 月 16 日 (土) 10 時 ~ 18 時
会 場 品川グランドホール (東京都港区)

セッション 1 「各施設における現状 1 がん専門薬剤師の処遇」

セッション 2 「各施設における現状 2 がん患者指導管理料 3 の実際」

ランチョンセミナー 「化学療法における薬剤師への期待」
国立がん研究センター中央病院 朴成和

認定制度委員会からのお知らせ
最優秀成績賞および優秀症例賞の表彰
JSPHCS 海外研修プログラム派遣者紹介
セッション3 「がん専門薬剤師の次なるステップ」
　　がん薬物療法への貢献を目指した研究の進め方
セッション4 「抗がん薬プロフィール小委員会の取組み」
　　リスクファクターに基づく「禁忌」と「慎重投与」
　　薬物間相互作用回避のための代替薬もしくは対応法一覧
イブニングセミナー 「新たな時代を迎えたがん免疫療法」
慶應義塾大学医学部 河上裕

◆ 参加者数 311人

1.1. がん専門薬剤師アドバンスト研修会

第3回がん専門薬剤師アドバンスト研修会

開催日 平成27年9月5日（土）

会場 北海道大学 薬学部・大学院薬学研究院 多目的講義室

症例検討1 「急性リンパ性白血病／リンパ芽球性リンパ腫」

　　講師 北海道大学病院 血液内科 杉田純一

　　北海道大学病院 薬剤部 熊井正貴

質疑応答

スモールグループディスカッション

解説

ランチョンセミナー 「悪性リンパ腫治療の最前線」

　　北海道大学大学院 医学研究科血液内科学分野教授 豊嶋崇徳

症例検討2 「大腸がん」

　　講師 北海道がんセンター 腫瘍内科 佐川保、北海道がんセンター
　　薬剤部 玉木慎也

質疑応答

スモールグループディスカッション

解説

◆ 参加者数 29人

1.2. 薬物療法専門薬剤師集中講義

(1) 福岡

開催日 平成27年6月13日、14日

会場 九州大学病院ウエストウイング 臨床大講堂

第1日 平成27年6月13日（土）

「加齢黄斑変性症」 九州大学大学院医学研究院 眼科学分野講師 大島裕司

「高血圧」 九州大学大学院医学研究院 病態機能内科学准教授 松村潔

「喘息・COPD」 九州大学大学院医学研究院 附属胸部疾患研究施設講師

松元幸一郎

「腎不全・ネフローゼ」 九州大学大学院医学研究院包括的腎不全治療学准教授

鶴屋和彦

「関節リウマチ」	九州大学病院 臨床教育研修センター准教授 新納宏昭
「クローン・潰瘍性大腸炎」	九州大学病院 消化管内科講師 江崎幹宏
第2日 平成27年6月14日(日)	
「白血病」	九州大学大学院医学研究院 病態制御内科学助教 白土基明
「不眠症」	久留米大学医学部 神経精神医学講座講師 小鳥居望
「糖尿病」	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座准教授 阿比留教生
「尿路感染症」	産業医科大学 名誉教授 松本哲朗
「アトピー」	九州大学大学院医学研究院 皮膚科体表感知学講座准教授 中原剛士
「肝炎、肝硬変」	九州大学病院 総合診療科准教授 古庄憲浩
◆ 参加者数 160人	

(2) 東京

開催日	平成27年12月5日、6日
会場 日本薬学会長井記念ホール	
第1日 平成27年12月5日(土)	
「不整脈(心房細動)」	東京大学医学部附属病院 教育・研修部准教授 江頭正人
「糖尿病」	東京大学医学部附属病院 糖尿病・代謝内科特任助教 笛子敬洋
「心不全」	東京大学医学部附属病院 循環器内科助教 綱谷英介
「感染症(抗菌化学療法)」	東京大学医学部附属病院 感染制御部助教 龍野桂太
「白血病」	東京女子医科大学 血液内科准講師 篠原明仁
「疼痛(がん疼痛の薬物療法を中心)」	山梨大学医学部附属病院麻酔科 医療チームセンター長 飯嶋哲也
第2日 平成27年12月6日(日)	
「腎臓病(腎代替療法)」	東京大学医学部附属病院 腎疾患総合医療学講座特任准教授 花房規男
「骨粗鬆症」	東京大学大学院医学系研究科外科学専攻 感覚・運動機能医学講座整形外科学 准教授 門野夕峰
「痛風・高尿酸血症」	東京薬科大学薬学部 病態生理学教授 市田公美
「肝炎」	山梨大学医学部附属病院 肝疾患センター長・准教授 坂本穣
「薬物動態と投与設計・薬物治療管理」	東京大学大学院薬学系研究科 医療薬学教育センター講師 山本武人
「関節リウマチ」	東京大学大学院医学系研究科 免疫療法管理学講座特任准教授 神田浩子
◆ 参加者数 174人	

1.3. 関係団体への協力

- 一般社団法人薬剤師認定制度認証機構 理事:安原眞人 社員:本学会
- 一般社団法人日本医療安全調査機構 医療事故調査制度への協力学会として登録

統括責任者：佐々木会頭

3) 平成 27 年度厚生労働科学研究費補助金

医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業

「薬剤師が担うチーム医療と地域医療の調査とアウトカムの評価研究」

研究代表者：安原眞人

研究協力者：佐々木会頭

[2] 組織運営の部

1. 平成 27、28 年度 代議員の選出

平成 26 年 12 月の代議員選挙により選挙選出代議員 213 名が当選した。平成 27 年 3 月の第 7 回定時社員総会における推薦代議員の選任決議を経た 22 名を加えた全 235 名が、同総会の終結時から約 2 年間にわたって代議員に就任した。

2. 平成 28、29 年度 役員の選出

平成 27 年 11 月に役員候補者選挙を実施し、理事候補者 14 名、監事候補者 3 名が選出された。平成 28 年 3 月の第 8 回定時社員総会では、推薦理事 6 名を含め、理事候補者 20 名、監事候補者 3 名の選任決議が行われる。

事業報告附属明細書

(平成 27 年 1 月 1 日から平成 27 年 12 月 31 日)

1. 役員 (平成 26 年 3 月 26 日第 6 回定時社員総会終了後から就任)

会頭

佐々木 均 長崎大学病院

副会頭

奥田 真弘 三重大学医学部附属病院
松原 和夫 京都大学医学部附属病院
望月 真弓 慶應義塾大学薬学部・病院

理事

青山 隆夫 東京理科大学薬学部
井関 健 北海道大学大学院薬学研究院
大森 栄 信州大学医学部附属病院
桂 敏也 立命館大学薬学部
川上 純一 浜松医科大学医学部附属病院
河原 昌美 金沢市立病院
北田 光一 一般社団法人日本病院薬剤師会
吉光寺 敏泰 MeijiSeika ファルマ株式会社
草井 章 北里第一三共ワクチン株式会社
千堂 年昭 岡山大学病院
谷川原 祐介 慶應義塾大学医学部
濱 敏弘 がん研究会有明病院
宮崎 長一郎 有限会社宮崎薬局
山田 清文 名古屋大学医学部附属病院
山本 康次郎 群馬大学医学部附属病院
山本 信夫 株式会社保生堂薬局

監事

乾 賢一 京都薬科大学
大石 了三
山田 安彦 東京薬科大学薬学部

2. 事務局 (平成 27 年 12 月 31 日現在)

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2 丁目 12-15 日本薬学会長井記念館 7 階

非常勤職員 4 名、一般社団法人日本病院薬剤師会事務委託職員 1 名

一般社団法人日本病院薬剤師会に一部事務委託

(平成 28 年 1 月より事務委託を解消)

協議事項 第2号議案

平成27年度 決算報告（案）

自 平成27年1月 1日
至 平成27年12月31日

貸借対照表

平成27年12月31日現在

一般社団法人日本医療薬学会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現 金 預 金	143,595,449	95,299,593	48,295,856
未 収 金	12,929,965	21,275,815	△ 8,345,850
前 払 金	1,218,720	1,228,720	△ 10,000
流動資産合計	157,744,134	117,804,128	39,940,006
2. 固定資産			
(2) 特定資産			
がん専門薬剤師海外研修引当資産	411,417	1,224,437	△ 813,020
財 政 安 定 引 当 資 产	100,000,000	100,000,000	0
特定資産合計	100,411,417	101,224,437	△ 813,020
(3) その他固定資産			
器 具 備 品	751,093	941,210	△ 190,117
建 物 附 属 設 備	4,963,088	5,070,398	△ 107,310
ソ フ ト ウ ェ ア	367,150	474,250	△ 107,100
電 話 加 入 権	74,984	74,984	0
差 入 敷 金	8,018,910	8,018,910	0
その他固定資産合計	14,175,225	14,579,752	△ 404,527
固定資産合計	114,586,642	115,804,189	△ 1,217,547
資産合計	272,330,776	233,608,317	38,722,459
II 負債の部			
1. 流動負債			
未 払 金	12,882,850	9,147,325	3,735,525
預 り 金	361,150	430,740	△ 69,590
前 受 金	23,249,600	21,644,000	1,605,600
流動負債合計	36,493,600	31,222,065	5,271,535
負債合計	36,493,600	31,222,065	5,271,535
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄 付 金	411,417	1,000,000	1,500,000
指定正味財産合計	411,417	1,000,000	△ 588,583
2. 一般正味財産			
正味財産合計	235,425,759	201,386,252	34,039,507
負債及び正味財産合計	272,330,776	233,608,317	38,722,459

正味財産増減計算書

平成27年 1月 1日から平成27年12月31日まで

一般社団法人日本医療薬学会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受 取 会 費	103,944,000	97,573,000	6,371,000
正 会 員 受 取 会 費	102,519,000	95,798,000	6,721,000
学 生 会 員 受 取 会 費	785,000	1,075,000	△ 290,000
賛 助 会 員 受 取 会 費	640,000	700,000	△ 60,000
事 業 収 益	200,272,364	175,687,673	24,584,691
受 取 参 加 費	130,996,950	113,193,850	17,803,100
認 定 審 査 料 収 益	11,091,600	12,212,016	△ 1,120,416
受 取 広 告 料 収 益	2,946,000	2,557,200	388,800
投 稿 揭 載 料 収 益	5,427,294	5,906,527	△ 479,233
研 修 会 収 益	31,990,000	24,808,000	7,182,000
会 誌 広 告 料 収 益	2,747,520	2,126,880	620,640
受 取 席 貸 料 収 益	15,073,000	14,883,200	189,800
受 取 補 助 金 等	500,000	951,248	△ 451,248
受 取 民 間 助 成 金	500,000	951,248	△ 451,248
受 取 寄 付 金	10,612,583	11,074,000	△ 461,417
受 取 寄 付 金	8,524,000	9,074,000	△ 550,000
受 取 寄 付 金 振 替	2,088,583	2,000,000	88,583
雜 収 収 益	5,281,654	4,480,923	800,731
受 取 利 収 息 益	42,501	23,121	19,380
購 読 利 収 息 益	345,600	400,200	△ 54,600
そ の 他	4,893,553	4,057,602	835,951
経常収益計	320,610,601	289,766,844	30,843,757
(2) 経常費用			
事 業 費	242,625,571	205,699,723	36,925,848
給 料 手 費	9,263,369	6,468,717	2,794,652
法 定 福 利 行 費	1,583,512	1,109,615	473,897
会 誌 発 行 費	33,442,440	36,137,355	△ 2,694,915
研 修 会 費	86,301,843	61,150,928	25,150,915
会 旅 議 通 費	16,247,734	8,442,809	7,804,925
通 信 費 交 通 費	4,473,078	4,839,737	△ 366,659
消 耗 品 費	12,822,284	3,907,590	8,914,694
印 刷 製 本 費	4,263,641	822,522	3,441,119
圖 書 購 入 費	15,357,664	20,771,261	△ 5,413,597
租 賃 借 貸 費	118,044	0	118,044
諸 委 借 諸 費	3,536,700	3,018,800	517,900
委 委 費	212,004	0	212,004
委 借 費	10,173,888	11,821,173	△ 1,647,285
委 謝 費	575,715	0	575,715
報 託 費	3,794,200	1,277,670	2,516,530
修 託 費	2,306,175	3,714,139	△ 1,407,964
研 委 費	30,639,613	35,055,517	△ 4,415,904
修 委 費	1,952,479	2,357,487	△ 405,008
研 委 費	2,529,474	1,904,357	625,117
管 委 費	3,031,714	2,349,646	682,068

正味財産増減計算書

平成27年1月1日から平成27年12月31日まで

一般社団法人日本医療薬学会

(単位:円)

科 目		当年度	前年度	増 減
管 理 費		43,945,523	55,255,819	△ 11,310,296
給 料	手 当 費	2,080,998	8,323,992	△ 6,242,994
福 利 定 法	厚 生 福 利 議 通 搬 備 品	176,630 298,767 4,721,809 269,380 1,470,630 1,214,324 581,250 89,570 544,455 14,741,700 617,391 20,000 10,850,000 3,521,949 2,746,670	151,322 1,271,983 4,739,140 661,782 699,320 895,562 1,037,967 671,635 387,750 14,403,912 574,657 20,000 15,321,426 3,243,922 2,851,449	25,308 △ 973,216 △ 17,331 △ 392,402 771,310 318,762 △ 456,717 △ 582,065 156,705 337,788 42,734 0 △ 4,471,426 278,027 △ 104,779
旅 通 消 消 租 減 賃 光 游 事 支 雜	費 信 耗 耗 税 値 煎 借 外 務 払 手 數		286,571,094	260,955,542
経常費用計			34,039,507	28,811,302
評価損益等調整前当期経常増減額			0	0
評価損益等計			34,039,507	28,811,302
当期経常増減額				5,228,205
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計			0	0
(2) 経常外費用				
経常外費用計			0	0
当期経常外増減額			0	0
当期一般正味財産増減額			34,039,507	28,811,302
一般正味財産期首残高			201,386,252	172,574,950
一般正味財産期末残高			235,425,759	201,386,252
II 指定正味財産増減の部				
受 取 寄 付 金		1,500,000	1,000,000	500,000
受 取 寄 付 金		1,500,000	1,000,000	500,000
一般 正 味 財 産 へ の 振 替 額		△ 2,088,583	△ 2,000,000	△ 88,583
一般 正 味 財 産 へ の 振 替 額		△ 2,088,583	△ 2,000,000	△ 88,583
当期指定正味財産増減額		△ 588,583	△ 1,000,000	411,417
指定正味財産期首残高		1,000,000	2,000,000	△ 1,000,000
指定正味財産期末残高		411,417	1,000,000	△ 588,583
III 正味財産期末残高		235,837,176	202,386,252	33,450,924

収支計算書

平成27年 1月 1日から平成27年12月31日まで

一般社団法人日本医療薬学会

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
会 費 収 入	91,950,000	103,944,000	△ 11,994,000
正 会 員 会 費 収 入	90,250,000	102,519,000	△ 12,269,000
学 生 会 員 会 費 収 入	1,000,000	785,000	215,000
賛 助 会 員 会 費 収 入	700,000	640,000	60,000
事 業 収 入	175,669,200	200,272,364	△ 24,603,164
受 取 参 加 費 収 入	109,775,200	130,996,950	△ 21,221,750
認 定 審 査 料 収 入	10,530,000	11,091,600	△ 561,600
受 取 広 告 料 収 入	4,724,000	2,946,000	1,778,000
投 稿 揭 載 料 収 入	5,130,000	5,427,294	△ 297,294
研 修 会 収 入	28,490,000	31,990,000	△ 3,500,000
会 誌 広 告 収 入	0	2,747,520	△ 2,747,520
受 取 席 貸 料 収 入	17,020,000	15,073,000	1,947,000
補 助 金 等 収 入	500,000	500,000	0
民 間 助 成 金 収 入	500,000	500,000	0
寄 付 金 収 入	11,000,000	10,024,000	976,000
受 取 寄 附 金 収 入	11,000,000	10,024,000	976,000
雜 収 入	1,649,000	5,281,654	△ 3,632,654
受 取 利 息 収 入	21,000	42,501	△ 21,501
購 読 ・ 揭 載 料 収 入	378,000	345,600	32,400
雜 収 入	1,250,000	4,893,553	△ 3,643,553
事業活動収入計	280,768,200	320,022,018	△ 39,253,818
2. 事業活動支出			
事 業 費 支 出	228,803,000	242,625,571	△ 13,822,571
給 料 手 当 支 出	9,456,000	9,263,369	192,631
法 定 福 利 費 支 出	1,536,000	1,583,512	△ 47,512
会 誌 発 行 費 支 出	28,625,000	33,442,440	△ 4,817,440
研 修 会 費 支 出	78,675,780	86,301,843	△ 7,626,063
会 議 費 支 出	12,750,000	16,247,734	△ 3,497,734
旅 通 費 支 出	2,890,000	4,473,078	△ 1,583,078
信 通 費 支 出	10,310,880	12,822,284	△ 2,511,404
消 耗 品 費 支 出	7,811,900	4,263,641	3,548,259
印 刷 製 費 支 出	15,084,400	15,357,664	△ 273,264
圖 書 購 入 費 支 出	0	118,044	△ 118,044
租 賃 公 課 費 支 出	5,176,125	3,536,700	1,639,425
諸 委 借 諸 費 支 出	0	212,004	△ 212,004
委 託 費 支 出	14,881,018	10,173,888	4,707,130
報 告 費 支 出	0	575,715	△ 575,715
外 海 外 研 修 費 支 出	2,080,000	3,794,200	△ 1,714,200
事 務 委 任 費 支 出	4,000,000	2,306,175	1,693,825
国 際 交 流 費 支 出	28,968,500	30,639,613	△ 1,671,113
会 員 管 理 費 支 出	500,000	0	500,000
支 手 数 料 支 出	2,146,000	1,952,479	193,521
	46,000	2,529,474	△ 2,483,474

収支計算書

平成27年 1月 1日から平成27年12月31日まで

一般社団法人日本医療薬学会

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異
雜 支 出	3,865,397	3,031,714	833,683
管 理 費 支 出	53,091,000	43,401,068	9,689,932
給 料 手 当 支 出	8,324,000	2,080,998	6,243,002
福 利 厚 生 費 支 出	300,000	176,630	123,370
法 定 福 利 費 支 出	1,258,000	298,767	959,233
会 議 費 支 出	7,280,000	4,721,809	2,558,191
旅 費 交 通 費 支 出	580,000	269,380	310,620
通 信 運 搬 費 支 出	1,660,000	1,470,630	189,370
消 耗 什 器 備 品 費 支 出	840,000	1,214,324	△ 374,324
消 耗 品 費 支 出	620,000	581,250	38,750
租 税 公 課 費 支 出	98,000	89,570	8,430
賃 借 料 費 支 出	14,572,000	14,741,700	△ 169,700
光 熱 水 料 費 支 出	588,000	617,391	△ 29,391
涉 外 費 支 出	200,000	20,000	180,000
事 務 委 託 費 支 出	10,850,000	10,850,000	0
支 払 手 数 料 費 支 出	3,071,000	3,521,949	△ 450,949
雜 支	2,850,000	2,746,670	103,330
事業活動支出計	281,894,000	286,026,639	△ 4,132,639
事業活動収支差額	△ 1,125,800	33,995,379	△ 35,121,179
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
特 定 資 産 取 崩 収 入	0	2,313,175	△ 2,313,175
がん専門薬剤師海外研修引当資産取崩収入	0	2,313,175	△ 2,313,175
投資活動収入計	0	2,313,175	△ 2,313,175
2. 投資活動支出			
特 定 資 産 取 得 支 出	0	1,500,155	△ 1,500,155
がん専門薬剤師海外研修引当資産	0	1,500,155	△ 1,500,155
固 定 資 産 取 得 支 出	0	139,928	△ 139,928
器 具 備 品 購 入 支 出	0	139,928	△ 139,928
投資活動支出計	0	1,640,083	△ 1,640,083
投資活動収支差額	0	673,092	△ 673,092
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
当期収支差額	△ 1,125,800	34,668,471	△ 35,794,271
前期繰越収支差額	0	86,582,063	△ 86,582,063
次期繰越収支差額	△ 1,125,800	121,250,534	△ 122,376,334

財産目録

平成27年12月31日現在

一般社団法人日本医療薬学会

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)				
現 金	手元保管	運転資金として		183,826
預 金	普通預金			143,411,623
未収金				12,929,965
論文掲載料				352,080
論文別刷作成料				48,060
論文転載許諾料				1,907,280
正会員会費				1,377,500
年会精算金				9,245,045
前払金				1,218,720
賃料・共益費				1,208,720
そ の 他				10,000
流動資産合計				157,744,134
(固定資産)				
特定資産				
がん専門薬剤師海外研修引当資産	普通預金			411,417
財政安定引当資産	定期預金			100,000,000
その他固定資産				
器 具 備 品				751,093
建 物 附 属 設 備	事務所賃貸造作			4,963,088
ソ フ ト ウ ェ ア				367,150
電 話 加 入 権				74,984
差 入 敷 金				8,018,910
固定資産合計				114,586,642
資産合計				272,330,776
(流動負債)				
未払金				12,882,850
預り金				361,150
前受金				23,249,600
流動負債合計				36,493,600
負債合計				36,493,600
正味財産				235,837,176

協議事項 第3号議案

平成28年2月19日

監査報告書

一般社団法人日本医療薬学会
会頭 佐々木 均 殿

一般社団法人日本医療薬学会

監事 乾 賢一 

監事 大石 了三 

監事 山田 安彦 

私たち監事は、当法人の平成27年1月1日から平成27年12月31日までの平成27年度の業務及び財産の状況並びに理事の職務執行について監査を行いましたので、監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1 監査の方法

各監事は、理事会に出席し理事及び使用人等からその職務の執行について報告並びに説明を受けるとともに、重要な決裁書類等を閲覧し、当法人の事務所において業務及び財産の状況を調査いたしました。

また、会計帳簿またはこれに関する資料の調査を行い、当該年度に係る計算書類及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告は、法令又は定款に従い法人の状況を正しく示していると認めます。
- 二 理事の職務の遂行に関して、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

協議事項 第4号議案

平成28・29年度 役員選任（案）

任期自 第8回定時社員総会の終結後
至 第10回定時社員総会の終結時

一般社団法人日本医療薬学会
平成 28、29 年度 役員選任名簿（案）

(五十音順)

<理事（20名）>

選挙・推薦	氏 名	所属施設	所属区分
選挙	青山 隆夫	東京理科大学・薬学部	大学
選挙	出石 啓治	いづし薬局	保険薬局
選挙	井関 健	北海道大学大学院薬学研究院	大学
推薦	伊藤 清美	武藏野大学・薬学部	大学
選挙	大谷 壽一	慶應義塾大学・薬学部	大学
選挙	奥田 真弘	三重大学医学部附属病院・薬剤部	病院
選挙	川上 純一	浜松医科大学医学部附属病院・薬剤部	病院
推薦	崔 吉道	金沢大学附属病院・薬剤部	病院
選挙	佐々木 均	長崎大学病院・薬剤部	病院
推薦	佐藤 淳子	医薬品医療機器総合機構・国際協力体制整備準備室	その他
選挙	千堂 年昭	岡山大学病院・薬剤部	病院
選挙	武田 泰生	鹿児島大学医学部・歯学部病院・薬剤部	病院
推薦	濱 敏弘	公益財団法人がん研究会有明病院・薬剤部	病院
選挙	松原 和夫	京都大学医学部附属病院・薬剤部	病院
推薦	峯村 純子	昭和大学横浜市北部病院・薬剤部	病院
選挙	宮崎 長一郎	有限会社宮崎薬局	保険薬局
推薦	望月 眞弓	慶應義塾大学・薬学部・薬剤部	病院
選挙	山田 清文	名古屋大学医学部附属病院・薬剤部	病院
選挙	山田 安彦	東京薬科大学・薬学部	大学
選挙	脇山 尚樹	第一三共プロファーマ株式会社・平塚工場	その他

注 1) 理事候補者選挙当選理事候補者：14名、 推薦理事候補者 6名

所属区分別 病院：11名、 大学：5名、 保険薬局：2名、 その他：2名

<監事（3名）>

選挙・推薦	氏 名	所属施設
選挙	大石 了三	
選挙	安原 真人	東京医科歯科大学大学院
選挙	山元 俊憲	昭和大学・薬学部

注 2) 監事候補者選挙当選理事候補者：3名